



小学生・中学生の皆さんへ

# あらかわ区報 Jr

ARAKAWA KUHO JUNIOR

2021年[令和3年]

3.15

No.139

発行：荒川区  
発行部数：23,000部  
〒116-8501  
荒川区荒川2-2-3  
☎(3802)3111

あらかわ区報Jr.は  
荒川区ホームページで  
ご覧になれます

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/a004/kouhou/kuhoujr/arakawakuhojr.html>



ジュニア



／ 其の武 ／  
モノづくりの街  
あらかわ

## バーコ印刷 ってなに？

モノづくりの街として知られるあらかわには、多くの  
人々から親しまれる「荒川ブランド」と呼ばれる製品があ  
ります。今回、第三日暮里小学校6年生のジュニア記者

たちが訪問したのは、株式会社オフィスサニー。  
特殊印刷加工技術「バーコ印刷」を用いた  
製品を作っています。さて、どんな  
体験ができるのかな？



「モノづくり見学・体験スポット」で  
オリジナルリングノート作りに挑戦！



オリジナルリング  
ノート作り、楽しそう！  
どんなノートができるかな？



新型コロナウイルス感染  
症予防のため、取材時は  
全員がマスクを着用して  
いますが、撮影のために  
マスクを外している場合  
があります。

問い合わせ

経営支援課

☎内線459

次は5月に発行する予定です

オフィスサニーが運営する紙雑貨ブランド「plus Orange」の製品をジュニア記者たちが取材。自社で独自に開発した手触りの良い紙素材とは何なのでしょう？そして、オリジナルリングノート作りはうまくいくのでしょうか？

# モノづくりの現場を見せてください！



## 特殊印刷加工技術・バーコ印刷について

### 教えてもらいました

バーコ印刷は、紙の表面に凹凸をつけるアメリカで生まれた特殊印刷加工技術で、印字したインキの上に「バーコの粉」という特殊な粉をかけて熱処理をすると、印字部分が盛り上がります。日本ではあまり普及していませんでしたが、品質を一定にするノウハウをオフィスサニーが習得。現在、いろいろなオリジナル紙雑貨に使われています。



▶バーコ印刷に使われる印刷機。300℃以上の熱で処理をするので、紙が燃えないように動かしながらいん刷します



▲バーコの粉をかけた印字部分が盛り上がり、きれいな凹凸の和柄になりました



▲「革のような紙」で作られたブックカバー。紙とは思えないような手触りにびっくり！

◀まずは動画でバーコ印刷の特徴を学びます。オフィスサニーの高橋さんがバーコ印刷について詳しく教えてくれました

まるで本物の革みたい！

櫻田 穂依さん



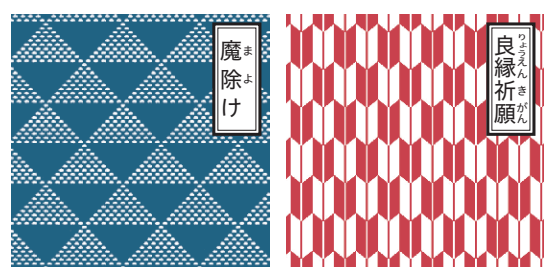
## バーコ印刷を使った製品っていろいろあるんだね

いろいろな模様があるよ

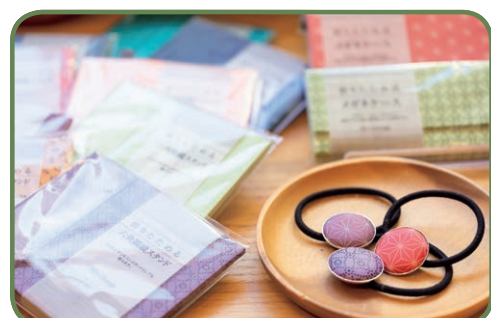
杉山 忠輝くん



店内には、和柄を印刷した「印傳のような紙」を使った雑貨がたくさん！「印傳」とは、なめした羊や鹿の革に漆で文様を付けたものです。南蛮貿易が盛んな17世紀にインドから伝わり、「印度伝来」がその名の由来と言われています。江戸時代には粋を愛する江戸の人々に愛好され、現代でも年代を問わず愛されています。また、和柄の伝統文様には一つひとつに意味があり、人々の生活が豊かになるよう願いが込められています。



▲和柄にはいろいろな意味があるんだね



▲バーコ印刷を使ったオリジナル製品

## オリジナルリングノートを作ってみよう！



自分で好きなパーツを選んでオリジナルリングノート作りに挑戦！表紙と裏表紙は、たくさんある和柄の中から選び、ノートの中身は無地やドットなどの中から2種類まで選べます。リングはシルバーとブラックがあり、好きなものを組み合わせて世界に一つだけのノートを作ることができます。どんなノートができあがるかな？



どれにしようかな？

▲表紙と裏表紙を選びます。色と柄がたくさんあるので迷う！



▼ノートの中身に使う紙を考え中。色は白とクリームがあります



これに決めた！

▲櫻田さんは、戦国武将たちから愛されたトンガ柄が印刷された白の表紙と裏表紙を選びました。杉山くんは大好きな青と赤を組み合わせでカラフルに！

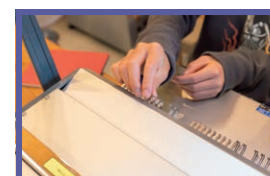
▶リング製本機を使って、紙にリングを通す穴を開けます。次に、リングと紙をセットしてハンドルを下げてと製本できます



うーん、悩む



▲穴を開ける場所を間違えないよう慎重に作業を進めます。高橋さんが丁寧に教えてくれるので、初めてでも安心



▲リング製本機にリングを装着。シルバーとブラック2色のリングを使うことにしました



▲ガシャーン！とハンドルを下げます。最初は緊張していたけど、だんだん慣れて楽しくなってきた！



かわいい和柄がお気に入りです

毎日持ち歩いて大切に使えます

上手にできました！

▶装着したリングに、穴を開けたノートの紙を差し込みます。完成まであと少し



若い世代にもバーコ印刷を知ってもらいたい機会になりました。最近には人気アニメの影響もあって、街のいろいろな場所で和柄を見かけます。それぞれの柄にどんな意味があるのかを考えながら見ると楽しいですよ

plus Orange  
ご案内

株式会社オフィスサニー  
荒川区東日暮里4-4-6  
☎3802-1916



株式会社オフィスサニー  
高橋 晶子さん

## 荒川区にある「モノづくり見学・体験スポット」を探そう！

区内にはオフィスサニーだけでなく、モノづくりをしている企業がたくさんあります。「モノづくり見学・体験スポット」では、工場・工房で製造工程の見学やモノづくりの体験ができます。詳しくは、「モノづくり見学・体験スポットガイド」を見てくださいね。

※必ず事前に電話予約をしましょう。認定看板が目印です。

▶モノづくり見学・体験スポットガイド

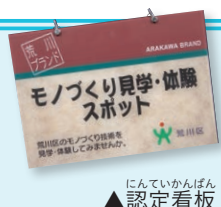
詳しくはこちら

モノづくり見学・体験スポット



問合せ

観光振興課 内線461



▲認定看板



# 懐かしいあの日の時 思い出写真館 町屋編

## 町屋駅とその周辺

町屋駅は、昭和6年(1931)の京成本線日暮里駅～青砥駅間の開業と同時に開設された高架の駅です。東京メトロ千代田線は、昭和44年(1969)に乗り入れました。また、都電荒川線も駅前に停留場があり、大正2年(1913)に稲荷前停留場(現、町屋駅前停留場)として開業しました。

昔から尾竹橋通り沿いには、多くのお店が商店街として建ち並んでいました。かつて都電荒川線のホームと商店街が一体化していた風景は、再開発により高いビルが建ち並び大きく様変わりしましたが、現在も町屋駅から連なる商店の多くは、地元の人々で賑わっています。

昭和26年(1951)頃

▶尾竹橋通りです。当時から通り沿いには、お店が建ち並んでいました



昭和61年(1986)頃



▲当時の尾竹橋通り沿いの商店街はアーケードでした

平成3年(1991)頃



▲駅周辺は昔ながらの街並みです。写真に写っている都電荒川線は、すでに引退した懐かしい車両です



▲開発前の町屋駅とその付近の様子です。線路の周りに比べ、建設中の建物が高く感じます

平成28年(2016)頃



▲再開発後の町屋駅周辺です。都電の停留場に沿って軒を連ねていたお店は高層ビルに代わり、昔の面影を感じることはできませんが、都電荒川線が走る風景は今も昔も多くの人に愛されています

## Topics

### 新しい尾久図書館が 開館しました

2月20日に尾久図書館が、場所を移動して新しく開館しました。新しい図書館は、宮前公園の中に建てられ、まるで自然の中にあるような木のぬくもりを感じられる明るい雰囲気です。見晴らしカウンターからは、公園をながめながらの読書ができ、晴れた日にはテラス席で飲食もできます。1階は、主に乳幼児から小中高生向けのフロア。2階は、大人向けのフロア。そして中2階は、吹き抜けで自然光が降りそそぐ開放的な空間で、子どもから大人までが交流できるスペースになっています。

みんなも新しくなった尾久図書館に、ぜひ遊びに行ってみてね。



▲建物の中は、いろいろな「ひろば」に分かれています

## あらかわ 今昔ものがたり 【あらかわの歴史と伝説】

その129

### 「行く春や」と「花に樽」の句碑

～芭蕉さんをデビューさせたのは宗因さん?!～

「行く春や」の句碑 「行く春や鳥啼き魚の目は涙」。これは誰の句でしょう？『あらかわ区報 Jr.』を読んでいるみんなには簡単な質問だったかな。そうだね、江戸時代に俳句で大活躍した松尾芭蕉さんの句だね。今から332年前の元禄2年(1689)3月27日、芭蕉さんは千住大橋のたもとで江戸の町とお友達にお別れして、奥の細道の旅に出発した。その時詠んだのが「行く春や」の句だ。素盞雄神社(南千住六丁目)に、文政3年(1820)に建てられた句碑(区指定文化財)があるよね。

デビュー前の芭蕉さん 芭蕉さんは伊賀上野(三重県伊賀市)生まれ。29歳の時に一人前の俳人になるために、江戸に出て来たんだってさ。神田上水の工事に関わる仕事をしながら、京都の北村季吟さんの教えを受けたり、江戸の俳人や俳句が大好きなお殿様、磐城平藩(福島県いわき市)の内藤風虎さんと交流したりして、ネットワークづくりに励んでいたんだ。

「花に樽」の句碑 区内には俳句関係の史跡が多

【問合せ】荒川ふるさと文化館  
☎(3807)9234



いよね。西日暮里三丁目の養福寺には「談林派歴代の句碑」(区指定文化財)がある。真ん中の句碑は「梅翁花樽碑」とも呼ばれ「江戸をもつて鑑とす也花に樽」の句が刻まれているんだ。談林派の祖の西山宗因(俳号・梅翁)さんの句だ。宗因さんは大坂天満宮(大阪府大阪市)にお教室を持つ連歌や俳句の有名な先生で、井原西鶴さんなどたくさんのお弟子さんがいた。芭蕉さんは弟子入りはしなかったけど、宗因さんの影響を受け、懸命に勉強していたんだよ。

宗因さんとの出会い 実はね、江戸に出て来て4年目の芭蕉さんは宗因さんとある所で出会っている。延宝3年(1675)、お殿様俳人の風虎さんが宗因さんを江戸に招待し歓迎会が開かれた。その時の記録に、芭蕉さんのもう一つの俳号・桃青の名が記されていたんだ。この出会いは風虎さんが仲介したのかもしれないけど、憧れの宗因さんの歓迎会のおかげで、芭蕉さんは江戸の俳句界へデビューできたんだよ。

区内には、日本を代表する俳人のお二人の句碑が二つもあるんだよ。今度、見学してみてね。



談林派歴代の句碑